

7. 河川空間の利用状況

7.1 河川敷の利用状況

(1) 利用概要

揖保川の河川の利用状況としては、高水敷に 12 箇所の公園・運動場が整備され、スポーツ・散策などに利用されており、これらの施設を散策路でつなぐことで、川により親しんでもらう整備を行っている。水面では釣り、水遊び、カヌー・ボート遊びといった利用がされている。年間河川利用者総数(推定)は約 60 万人である。沿川市町人口からみた年間平均利用回数は約 1 回となっている。利用形態別では、散策等が 60%と最も多く、次いでスポーツが 26%と両方で 86%を占める。水遊びは 3%にすぎない。利用場所別では、河川敷が 77%と他の場所に比べて非常に高い割合になっている。

揖保川における河川利用形態は、下流域が中心で、スポーツや散策等の利用が多くなっている。利用者数が多いのは、左岸 11～12km、12～13km、右岸 17～18km など、いずれも下流部の施設の利用区域で、河川敷でのスポーツや散策等に利用されている。施設の利用区域の少ない上流部では、釣りや散策等の利用が多くなっている。

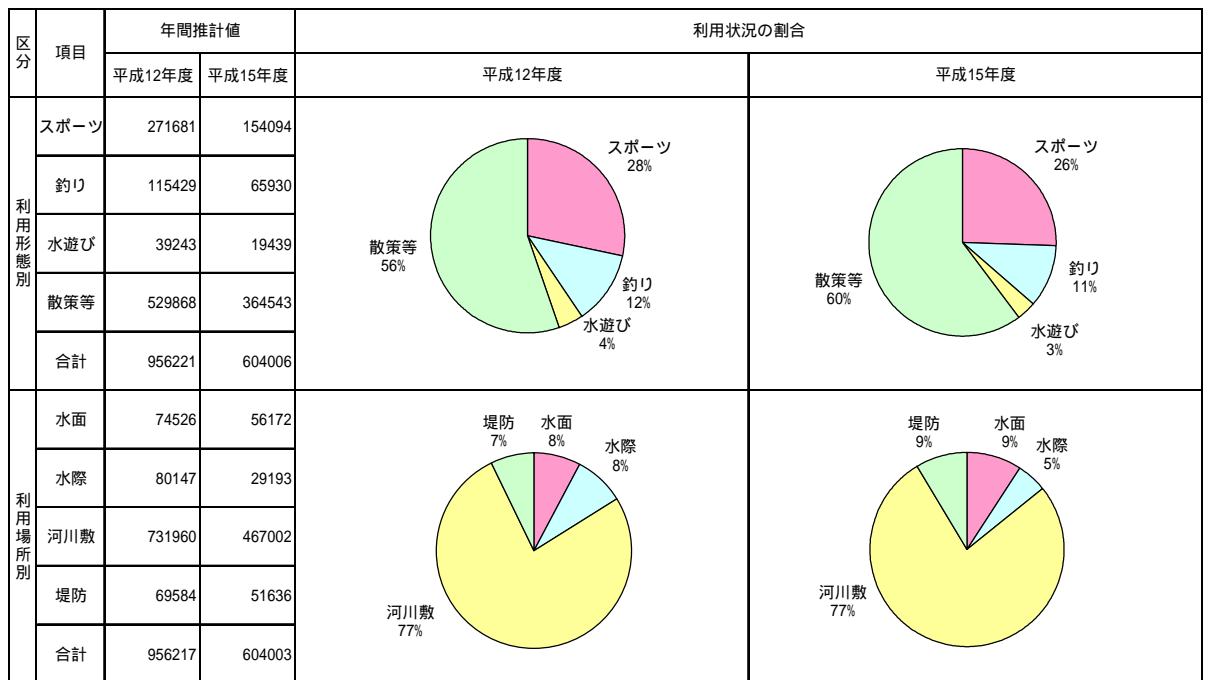


図 - 7.1 揖保川の河川の利用形態・利用場所

(2) 河川敷の利用

河川敷の拠点的な利用状況についてはたつの市龍野の「祇園公園」や「千鳥ヶ浜河川公園」、「水辺ふれあい公園」等があり、これらの施設の利用者が最も多い状況となっている。その他の利用については、夏期に釣り人が非常に多く、三川分派地点より上流域で見られる。なお、揖保川の河川敷を利用した公園・運動場については現在、12箇所、約275,000m²が整備されている。



祇園公園



千鳥ヶ浜公園

表 - 7.1 河川敷整備状況

目的	施設名称	施設位置	専用面積 (m ²)	管理者
公園	河川公園	揖保川2.4k+30m(左岸)	4390.7	姫路市
	揖保川(上余部)	揖保川2.8k+50m(左岸)	847.9	姫路市
	揖保川ピッコ広場	揖保川4.2k(左岸)	1030.7	姫路市
	町屋河川敷公園	揖保川9.8k～10.4k+80m(右岸)	42549.0	たつの市
	千鳥ヶ浜公園	揖保川11.2k+28m ～12.2k+50m(左岸)	84698.9	たつの市
	祇園公園	揖保川13.2k+10m ～14.2k-15m(右岸)	50106.2	たつの市
	水辺ふれあい公園	揖保川16.8k ～17.6k(左岸)	70855.5	たつの市
	キャンプ用地及び遊歩散策地	揖保川18.4k+90m ～18.4k+220m(左岸)	3511.7	たつの市
	戸原児童公園	揖保川25.4k+150m(左岸)	4827.9	宍粟市
	公園	元川1.0k-90m ～1.0k+10m(左岸)	2354.4	たつの市
	公園及び坂路	林田川1.0k+100m(左岸)	7360.5	太子町
	ゲートボール場	栗栖川3.0k(右岸)	2546.6	たつの市
	小計	左岸側	179878.2	
		右岸側	95201.8	
	合計		275079.9	

7.2 河川の利用状況

(1) 舟運

揖保川に高瀬舟が浮かんだのは、元和 7 (1621) 年のこと。それ以前は、陸路で人の肩や牛馬の背に乗せて荷物を運んでいたが、大量の荷物を一度に早く運ぶため、播磨国宍粟郡山崎町の竜野屋孫兵衛が、莫大な私財をつぎ込み、網干から山崎町出石浜までの約七里（約 28km）の水路を通じさせた。

高瀬舟が運んだものは、下りは米、大豆など各藩の年貢と、山崎の薪、炭、龍野の醤油などの特産物で、河口の網干で千石船などに積み替え、大阪、京都へ運ばれました。上りは、赤穂の塩や日用品、贅沢品などが積まれた。舟運に費やす時間は、およそ下り 1 日、上り 2 日。上りに時間がかかったのは、人足たちが曳綱で舟をつなぎ、川筋の道を引き上げらなければならなかったからである。

最盛期には年に延べ三千隻もの高瀬舟が行き交い、荷物が集積する出石や網干では藩の米倉、回船問屋、倉庫などが軒を並べ、大変賑わった。また、当時の揖保川は橋がなかったため、参勤交代の大名や商人たちは「渡し」を利用して川を横断していた。美作街道と交わる鯿崎、山陽道の正條には渡しがあり、重要な拠点となった。



写真 高瀬舟

(2)内水面漁業

昭和30年頃までの揖保川は、天然アユの遡上が豊富で、中流域でのアユ漁が盛んであった。しかし、昭和30年代以降、工業発展に伴って工場からの排水や生活排水が下流の河床にヘドロを堆積させ、魚や昆虫等の生物が生息できない環境となった。しかし、清流ルネッサンス21事業の結果、揖保川、林田川の水質が飛躍的に改善し、平成7年には天然アユの遡上が約40年ぶりに住民により確認された。

揖保川での漁業権設定状況は、以下のとおりである。

表 - 7.2 揖保川における内水面漁業権

漁協名	対象魚種	期間	区間
揖保川漁業 共同組合	アユ	5/26～12/31	姫路市網干区、余部区、たつの市および宍粟市地先 (揖保川本支流及び引原ダム並びに安富ダムにより拡張された水面)
	コイ	1/1～12/31	
	フナ	同上	
	ウナギ	同上	
	ニジマス	同上	
	アマゴ	3/1～9/30	
	オイカワ	1/1～12/31	
	ウグイ	同上	
	ワカサギ	同上	
	モクズガニ	同上	

平成16年の漁獲量をみると合計で135tの漁獲量がある。その内訳として、アユが最も多く120tであり全体の89%を占めている。また、アユを26t放流している。

漁獲量の変遷をみると、最盛期の平成2年には652tあった漁獲量が平成16年には135tまで減少している。しかし、アユの放流量は年々増加している。

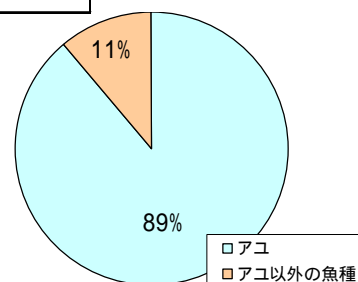


図 - 7.2 漁獲量内訳 (H16年)

表 - 7.3 揖保川における内水面漁業 漁獲量 (H16年)

アユ	コイ	フナ	ウナギ	ニジマス	アマゴ	イワナ	ワカサギ	オイカワ	ウグイ	その他	合計
120,000	200	200	700	150	500	100	80	3,000	10,000	200	135,130

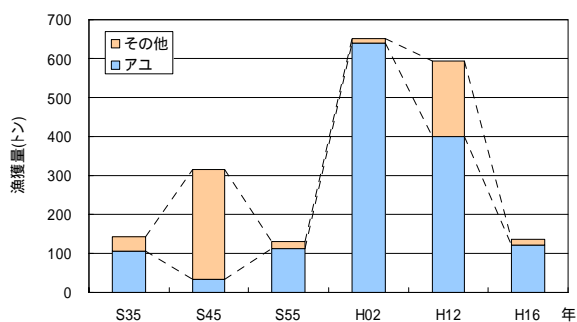


図 - 7.3(1) 揖保川漁獲量の変遷

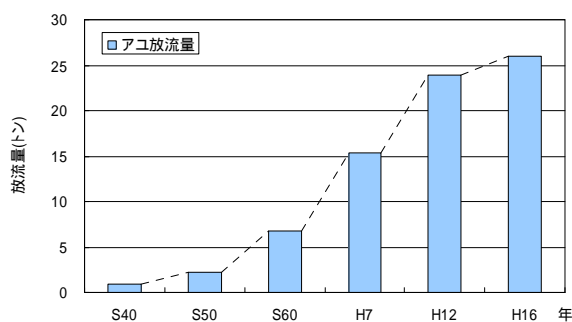


図 7.3(2) アユ放流量の変遷

出典：兵庫県統計書